

泣いている時間はない

墨田の小沢さん



出版した詩集を手に笑顔を見せる小沢さん

難病と闘う思い 詩集に

全身の筋肉が次第に衰える難病「筋ジストロフィー」を患う会社員の小沢綾子さん(35)(墨田区)が、初めての詩集「10年前の君へ 筋ジストロフィーと生きる」(百年書房)を出版した。病気を告げられ絶望した小沢さんが、同じ病気の男性らに励まされ、前に進むまでの言葉を紡いだ。

小沢さんは、小学4年の頃から走るのがつらくなるなど、体に違和感を覚え、20歳の時に筋ジストロフィーと診断された。有効な治療法はなく、医師からは「10年後は車いす。その先は寝たきり」と告げられた。

か、ご飯は一人でいつまで食べられるのか、結婚や就職は

できるのか……。次々に不安がこみ上げ、「人生のどん底に落ちた。誰にも相談できずに一人で泣いていた」と振り返る。

だが、リハビリの担当医や、同じ病気で30年以上病院で寝たきりの男性に出会って励まされた。男性から「やりたいことがいっぱいあって時間が足りない。秘書がほしい」とのメッセージが送られてきて驚いた。「体はどんどん動けなくなる。今を大事に、やりたいことは全部やろう」と思うようになった。

詩集には、△明日からは泣いてなんかいられない▽△君の時間は限られているから▽△病気だから できることが たくさんあって 病気だから 会える人だって たくさんいる▽など前向きな詩を載せた。

最後には△安心して 10年後の君は 君が思っているほどに 悪いものじゃないから▽と希望をつづった。

小沢さんは「未来が不安な人に、そっと寄り添い支えるような本を作りたかった」と語る。読者からは「未来に希望が持てた」「当たり前前に感謝している」との声が寄せられた。

病状が進み、今年1月から は電動車いすを使うようになった。電車の乗り降りなど一人でできないことが増え、悔しい思いをすることもあった。ただ、落ち込むばかりでなく、同じ病気の友人が作った曲を歌ったり、講演で全国を巡り、生きる大切さを伝えたりしている。

4月には初めて海外で歌を披露した。デンマークのイベント会場で歌声を響かせると感謝の言葉を掛けてくれる人や握手を求める人で列ができた。IT企業に勤め、結婚もした。「想像以上に今は幸せです。人一倍、今を生きたい」と笑顔を見せた。

詩集は税込み540円。問い合わせは、百年書房(03・6666・9594)。